

中心市街地活性化基本計画について

産業振興部商工観光課・建設部都市計画課

基本計画 : 雲南市中心市街地活性化基本計画

認定申請 : 平成28年10月3日付

認 定 : 平成28年11月29日付

計画期間 : 平成28年12月～平成34年3月
(5年4か月)

雲南市（中国ブロック）

【計画期間 平成28年12月～34年3月】

- ・ヤマトノオロチ伝説で知られる斐伊川が流れ、各地に神話や伝説が残る。
- ・江戸時代には山陰から広島方面に通じる宍道尾道街道の要衝であった。
- ・山間部ではたたら製鉄や炭焼きが盛んに行われ、近年は、工業団地の整備が進んでいる。
- ・平成16年に大東町、加茂町、木次町、三刀屋町、吉田村、掛合町が合併人口39,059人（平成27年国勢調査）面積553.18Km²

【中心市街地をめぐる状況】

○中心市街地に位置し、地元資本の商店が集積する「三刀屋原商店街」は、国道やICの開設など進展する道路整備とともに、変化を余儀なくされ、商店街の近代化や商業集積が進められた。

交通の要衝として栄えることが期待される一方、交通利便性の向上により市外へ購買客が流出している。

【中心市街地に関する指標の推移】

- 三刀屋原商店街の年間商品販売額
H19年度：8,121百万円→H26年度：6,326百万円（▲1,795百万円、▲22.1%）
- 三刀屋・木次地区から出雲市、松江市への購買流出率
出雲市 H19年度：29.0%→H25年度：37.5%（8.5ポイント増）
松江市 H19年度：6.3%→H25年度：7.2%（0.9ポイント増）

【目指す中心市街地像】

商業の中心・まちの顔を作る

【計画目標】

目 標	目標指標	現状値	目標値
購買力流出の抑制	中心市街地の新規出店数	10店舗 （H23-H27年度）	15店舗 （H28-H33年度）
定住人口の増加	中心市街地の人口	2,051人 （H27年度）	2,094人 （H33年度）
交流人口の増加	中心市街地で実施するまめなカー市の年間入込客数	5,800人/年 （H27年度）	10,000人/年 （H33年度）

購買力流出の抑制	定住人口の増加	交流人口の増加
【主要事業】 ・SAKURAマルシェ整備事業 ・民間商業施設整備事業 ・市道改良事業 ・ビジネスホテル整備事業 ・空き家・空き店舗再生事業 ・創業者育成支援セミナー事業 など	【主要事業】 ・まちなか居住支援事業（基町団地） ・子育て世帯定住宅地購入補助金 ・住宅リフォーム支援事業 ・住宅ストック活用推進事業 ・市民バス路線改善事業 ・高齢者等タクシー利用料金助成制度 など	【主要事業】 ・多目的イベント広場整備事業 ・まめなカー市実施事業 ・ビジネスホテル整備事業（再掲） ・民間商業施設整備事業（再掲） ・元気パーク整備事業 ・多目的トイレ整備事業 など

雲南市中心市街地活性化基本計画の事業概要

購買力流出の抑制

①SAKURAマルシェ整備事業

地元の食材を活かした飲食店など個性的な店舗が集まるオープンモールを整備する。自然環境と調和した特別な空間を演出し、購買意欲の向上を図る。

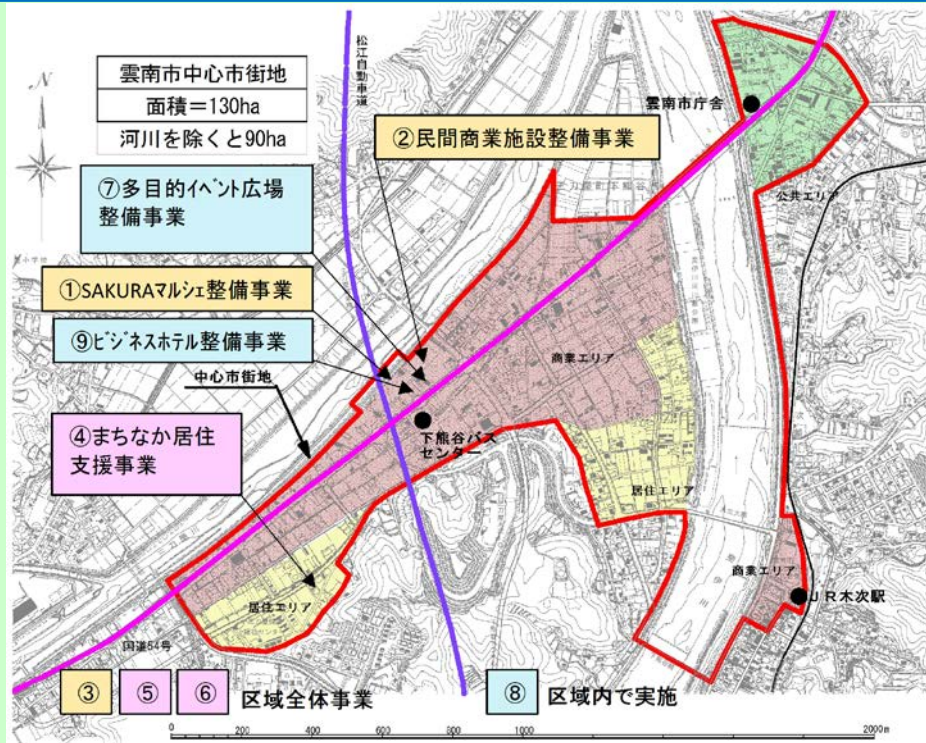


②民間商業施設整備事業

老朽化した商業施設をリニューアルすることで集客力を高め、購買力の市外流出を抑制する。

③創業者育成セミナー事業

これから起業しようとする人に対し、事業計画、資金計画、会社設立等に関するセミナーを行い、人材を育成する。



定住人口の増加

④まちなか居住支援事業

老朽化した基町団地を建て替え、新たな入居を促進し、定住人口の増加を図る。



⑤子育て世帯定住宅地購入補助金

子育て世帯と市外からの移住を支援するとともに、中古住宅の流通と民間事業者による宅地開発・造成事業を促進する。

⑥住宅リフォーム支援事業

住宅のバリアフリー化、耐震化、エコ住宅への改修を行う際に、その費用の一部を助成することで、安全・安心・快適な住宅へと改修を促し、定住を促進する。

交流人口の増加

⑦多目的イベント広場整備事業

まめなカー市(軽トラック市)の開催を中心に域外からの来街者を引き付ける様々なイベントが実施できる広場を整備し、交流を促進する。



⑧まめなカー市実施事業

「まめなカー市」と称して、生鮮野菜や特産加工品など様々なジャンルの商品を積んだ軽トラックが整列し、市場を開催することにより市内外から集客を図る。

⑨ビジネスホテル整備事業

市外からのビジネス客、観光客の宿泊需要に対応し、ホテルを整備する。

